

# 親子で読んでほしい絵本大賞

# 美しい絵本大賞

発表



今年も「親子で読んでほしい絵本大賞」10作品と、ベビー賞1作品が、JPIC読書アドバイザー92名の投票で決まりました。選出のコメントは、おはなし会などの現場で実際に子どもたちに向けて絵本を読んでいるアドバイザーならではのものです。ぜひ、参考にしてください。また、小誌読者のみなさんにも「読者賞」の投票をいただき、ありがとうございました。

★コメントを寄せていただいたJRACの方の敬称略、順不同。 撮影/J・SAKURA

★今まで知られていなかった神秘的な深海の世界に引き込まれました。絵とわかりやすい文によって、実際にはこの目で見ることのできない深海の生命の不思議に一步近づけた気がします。  
(20期/菅 弥和乃)

★絵の迫りに圧倒されました。深海という見えない世界、その中で自然の営みを親子で味わうことのできる絵本だと思いました。  
(27期/さち)

★読みきかせをしていて、子どもたちに聞いてもらえる機会がありました。あらためて、へえーと思ったり絵の迫力を感じたり……。子どもと一緒に見ていたら、思いを共有できそうです。  
(30期/坂口京子)

★謎多き深海の生態系を、わかりやすい文と美しい絵で描く科学絵本。クジラの「死」から始まる生命の物語は、壮大なドラマを感じます。巻末に深海の生物図鑑があり、子どもから大人まで科学的な探究心が高まります。  
(16期/石原恵以子)

★真っ暗な海底で命のやりとりをし、輪廻を繰り返す。世代にわたり心にしみる作品です。  
(13期/豊増良子)

★「深海」での食物連鎖が、繊細な絵とわかりやすい文章で綴られています。死んだクジラはどんな生物にどう関わるのか。近年の研究で明かされた実態、広大な海の中での特殊な生態系を、大人も子どもも楽しみながら読めます。  
(25期/まっぼ)

★大きな体で海を悠々と泳ぐ……。そんなクジラが死んだあと、深い深い海の底でクジラの命を引き継ぐものたちを描いたこの絵本は、生命の不思議と驚きに満ちています。迫力のある絵も言葉も解説も、親子でたっぷり味わいたいですね。  
(27期/村田純子)

★なんと奥深い世界観でしょう。手に取った瞬間から、その世界に引き込まれます。底知れぬ深海の深さ、光と闇、巨大なクジラから、目に見えぬ微生物まで。静かに時が流れていきます。  
(26期/minosan)

★命を終えたクジラは、死後100年にわたって深海にすむさまざまな生きもののごちそうとなり、その命をつないでいるそうです。はじめて知る壮大な深海のおはなしは興味深く、描かれた生きものたちも愛嬌があり、楽しく読めます。  
(22期/有田早苗)

★人が行くことのできない深海と、そこにすむ不思議な生きものたちの食物連鎖という科学の話をわかりやすい文とかわいらしい絵で、子どもから大人まで親しめる物語にしてくれました。海のことをもっと知りたくなります。  
(25期/竹村安喜子)

★深海の世界が、とても奥深く美しく描かれています。  
(15期/中村典子)

★クジラの命が尽きて沈んでいったとき、深くて暗い海の底で起きている不思議な命のつながり。クジラに集まってくるさまざまな生物の命を100年にもわたって支えるという壮大なおはなし。親子で楽しめる科学絵本。  
(24期/下伊豆かおり)



『クジラがしんだら』  
文/江口絵理  
絵/かわさきしゅんいち  
監修/藤原義弘  
1,980円(童心社)

## 親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい！ いい絵本を親子に届けたい！との思いを込めて、JPIC読書アドバイザークラブ(JRAC)により創設されました。選出方法: JRAC会員60名からなる選考委員が、「この本読んで!」2025年春号~冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から候補作16作品を選出。それを、JRAC会員有志が読み、16作品の中から1~3位とベビー賞を選んで投票しました。  
※ JPIC読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、P49下部に記載しています。



運動フェア実施!  
この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで  
こどもの本のお店 ともだち  
(神奈川県横浜市)  
045-561-5815

# 著作権保護コンテンツ

酉



## 『ないたにわとり』

作/スキトモコ  
1,408円(ひかりのくに)  
自分が一番きれいだと思っているニワトリは、庭で人気者のバラと毎日言い争っていました。ところがある日、バラが切りとられてしまいます。静かになった庭で、ニワトリは大切なことに気づきました。

申 巳 復刊



## 『さるのせんせいとへびのかんごしさん』

文/穂高順也  
絵/荒井良二  
1,760円(プロンズ新社)  
新しくできたどうぶつ村の病院は、やさしいサルのお医者さんと働きもののヘビの看護師さんです。カゼをひいたというキツネさんのために、ヘビの看護師さんは草や根っこで薬を調合するのですが、自分で飲んでしまいます。

未



## 『ひつじシステム』

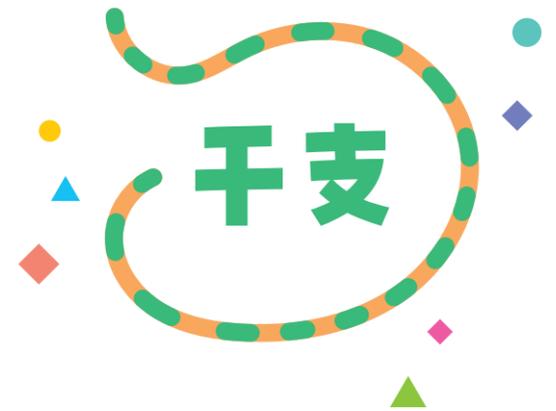
作/大串ゆうじ  
1,760円(小学館)  
眠れない「ほく」が、隣で寝ているお母さんに言われた「ヒツジを数える」というアドバイスから、頭の中で仕掛けが動きだします。ヒツジが1匹、ヒツジが2匹……。376匹を数えたところで、何かが動きだしました。

子



## 『20匹のピクニック』

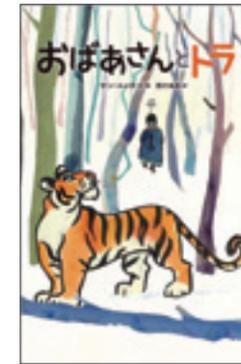
作・絵/たしろちさと  
1,650円(ひかりのくに)  
20匹のネズミの大家族が、春の公園へピクニックに出かけます。みんなでお弁当をつくり、草花を使って遊ぶ楽しい一日。未っ子のいちごちゃんにとっては、はじめてのピクニックです。



寅

## 『おばあさんとトラ』

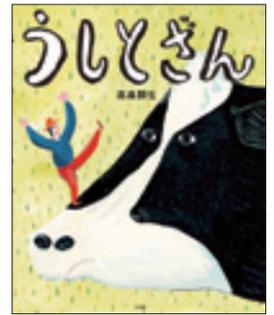
作・絵/ヤン・ユッテ  
訳/西村由美  
2,200円(徳間書店)  
散歩が大好きなおばあさんが、雪の森でトラに出会いました。おばあさんはトラを家へ連れて帰り、一緒に暮らすことにします。ふたりは楽しく暮らしていましたが、ある日、トラの具合が悪くなってしまいました。



丑

## 『うしとざん』

作/高島那生  
1,540円(小学館)  
今日はウシに登ります。たくさんいるウシのなかから、半分寝ているようなウシを選んで、足元からぎゅつぎゅつと毛をつかみながら登ります。汗だくなって背中の上にとどろいたら、サイクリングがおすすすめです。



亥

## 『藤吉じいとイノシシ』

作/椋 鳩十  
絵/保立葉菜  
1,870円(理論社)  
藤吉じいさんと、町で育った孫の一郎が山に出かけ、落ち葉の上でひと休みしていると、イノシシの親子が飛びだしてびっくり仰天。そこはイノシシのねぐらでした。ふたりは、離れてしまった親子が戻るのをじっと待ちます。



戌

## 『こいぬのがっこう』

作/きたむらさとし  
1,760円(岩波書店)  
ルーシーが学校へ行く間、ひとりで留守番するイヌの「ほく」。街へ出たら、「こいぬのがっこう」を見つけました。体のかきかた、あいさつの仕方を習ったけれど、途中で迷子になってしまい……。ルーシーに会えるでしょうか。

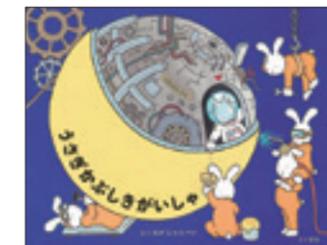


辰 新刊



## 『どらごんごんどら』

作/たちばなはるか 1,760円(偕成社)  
どらごんごんどら、どんぶらこ。どらごんごんどらが七福神を乗せ、宝船になり宝島へ。きらめくくだもの、不思議なきのこ、美しい音を奏でる琵琶に、登龍門の水の玉。願いがこもった宝を乗せた宝船は、大切な場所へと向かいます。



## 『うさぎかぶしがいしゃ』

作/ふくながじゅんべい 1,540円(こくま社)  
まんまるお月さまが森の中に静かに着陸。ガチャ、ウーン。月からウサギのパイロットが降りてきました。月を空にのぼらせているのは、「うさぎかぶしがいしゃ」の仕事なのです。あるときパイロットが寝坊してしまい……。

卯

# 十二支総出演

## 『じゅうにしのはなしのつづき』

作/スギヤマカナヨ  
1,430円(ひかりのくに)  
十二支に入れなかったネコとライオンが、新しい十二支を決めようと、動物会議を開きます。新しい十二支の候補と旧十二支は、それぞれの特技で勝負をします。次々と対決が続くなか、神さまが語る言葉とは。



## 『十二支がくえん』

作/かんべあやこ  
1,650円(あかね書房)  
十二支の動物たちが通う「十二支がくえん」。仲間に入れなかったネコは、十二支を見返そうと学校にもぐりこみ、十二支と一緒に過ごします。時間や方角を学ぶ毎日の中で、ネコの気持ちは少しずつ変わっていきます。



午

## 『わらってよピッコ』

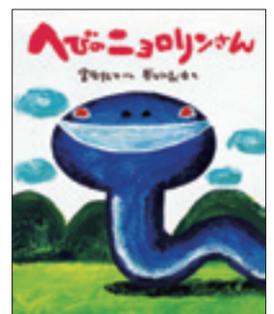
作/ルイス・スロボドキン  
訳/こみやゆう  
1,430円(福音館書店)  
小さな公園にピッコというポニーがいました。晴れた日は子どもたちをカートに乗せて園内を回ります。でもピッコは、なぜだかいつも悲しそうにしていました。よく公園に来るきょうだいは、どうしたらピッコが笑ってくれるか考えました。



巳

## 『へびのニョロリンさん』

文/富安陽子  
絵/長谷川義史  
1,650円(童心社)  
ヘビのニョロリンさんは脱皮をしたら、家が小さくなってしまったので引越すことにしました。ようやく見つけたのはトメばあさんの家の屋根裏。ニョロリンさんは、トメばあさんに「ニョロロくお願いします」とあいさつします。



# 著作権保護コンテンツ

## 『やってみた』

作/大塚健太  
絵/へんみあやか  
1,595円(岩崎書店)



カバが木のほりをしますが落ちました。ペンギンが羽をつけて飛んでみましたが落ちました。動物たちは、いろんなことをやってみますが失敗します。でも、失敗って、たいしたことではないのかもしれない。

## 『ゆきのひのさんぽ』

作/とりごえまり  
1,650円(アリス館)



はじめて雪が降った森で、そらくんとネコのチャイは雪だるまをつくりました。次の日、雪だるまの目や口にした木の葉がなくなっていました。森の生きものたちの仕業のようです。それを見てそらくんはすてきなプレゼントを思いつきます。

## 『開運えんぎもの図鑑』

作/高野紀子  
1,760円(あすなろ書房)



縁起物の代表、招き猫は、左右どちらの手をあげているかで意味が違ってきます。赤がおめでたい理由や数字に隠された意味など、縁起物について、改めて知ることがいっぱいです。全部で250種類の縁起物が登場します。

## 『のこったのこった』

文/おおなり修司  
絵/中川学  
1,650円(絵本館)



「のこったのこった」。軽快なリズムに合わせて、お相撲さんは、つっぱりでもなく、上手投げでもない技を次々繰り出します。さて、試合に勝って、「こったこった」とお風呂で疲れを癒やすのはどちらでしょうか。

## 『わたしが好きなもの』

作/たけうちひろ  
1,870円(アリス館)



しょうちゃんが好きなものは、クマのぼうし。あーちゃんが好きなものは、カエルの傘。はるちゃんが好きなものは、ケーキ屋さん。好きなものはみんなそれぞれです。さてさて、きみが好きなものは何でしょうか。

## 『クッキー投票!』

文/M・マクナマラ、D・バーンストロム  
絵/G・ブライアン・カラス  
訳/椎名かおる  
1,760円(あすなろ書房)



ティフィン先生のクラスで、自分たちの州をよくするアイデアを考え、「州の公式クッキーをつくる」ことに決まりました。試作や議論をして、クッキーの味を決定するため、州議事堂で投票を行うことにしました。

## 『おどっているよ、わたしの目でみることばでおはなししたら』

文/ジョアンナ・ケ、チャリーナ・マルケス  
絵/フラン・アルヴァレス  
訳/ミレナ・イノセンシオ・ドミンゴ  
2,090円(偕成社)



マイちゃんの家族の手は、いつも踊っているように見えます。それは、「目で見る言葉」の手話で、マイちゃんが教えてくれました。巻末には、手話の解説がついています。

## 『ほんが好きな ホンガスキーさん』

文/ダヴィテ・カリ  
絵/ロレンツォ・サンジヨ  
訳/はしづめちよこ  
1,980円(イマジネーション・プラス)



本が大好きなホンガスキーさんは、世界中のあらゆる珍しい本を集めています。ある日、一冊の本を家じゅう探しますが、どこにもありません。本が多すぎるからだとかわり、あることを思いつきました。

## 『モネの庭』

作/カーチェ・ヴェルメール  
訳/野坂悦子  
2,310円(アチェロ)



印象派の画家・モネが、その代表作「睡蓮」を描き始めたのは57歳のときでした。四季折々の花が咲く庭は、彼の人生そのものです。巻末に、各ページの解説が年譜とともに掲載され、モネの人生と作品をより深く味わえます。

## 『いつもの あさの あいうえお』

作/うえだまこと  
2,200円(あかね書房)



朝、いつもの一日が始まりました。ごはんを食べて、絵本を読んで、いつもの午後を過ごしたら、毛布に包まれる、やさしい夜になります。「いつものこと」であふれる、いとおいしい毎日を、五十音にのせてかみしめます。

## 『ハグのうた』

作/おーなり由子  
1,650円(偕成社)



泣いている女の子を、お母さんがぎゅうっとハグしてくれました。はじめて入院した男の子を、妹がハグしてくれました。誰かと誰かが抱きしめ合うたびに心の中に色とりどりの花が咲くのです。ハグって不思議です。

## 『あめあめ ふれふれ』

作/くすのきしげのり  
絵/酒井以  
1,540円(岩崎書店)



みさとは学校からの帰り道、突然の大雨にバス停で雨宿りをしました。居合わせた1年生と3年生の3人で、雨がやむようにお祈りをしてみましたが、雨はますます強くなってきます。すると、そこに誰かが走ってきました。

## 『おなかの なかの だいそうげん』

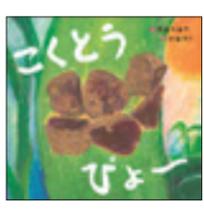
作/神尾茉莉  
1,540円(アリス館)



遊んだあとに飲むお水は、とてもおいしい。でも、おなかの中でそのお水はどうなっているの? いつも大盛りごはんのお兄ちゃんや、サラダが大好きなママのおなかの中では、どんなことが起きているのでしょうか。

## 『こくとう びよ〜』

作/高橋久美子  
絵/加藤休ミ  
1,980円(あかね書房)



愛媛の畑で育ったサトウキビは、太陽を浴び、台風にあたえ、収穫されて、山の工房で食べれば、「びよ〜」となる黒糖に姿を変えます。黒糖になるのは、わずかな量。その一年をサトウキビの視点で描いた絵本です。

## 『ゆき』

作/三浦太郎  
1,650円(偕成社)



雪が積もった山の中は静かです。シカやウサギたちが歩き回り、子どもたちはそりやスキーをして遊びます。池でスケート遊びを楽しむにぎやかな声も聞こえてきました。雪の中、出かける人を「いってらっしゃーい」と見送ります。

## 『因果ばなし』

原作/小泉八雲  
翻案/円城 塔  
絵/中川学  
編/東 雅夫  
1,760円(岩崎書店)

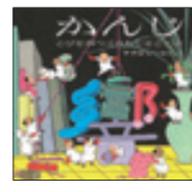


死にかけていた大名の妻は、夫の側室のゆきこと庭の桜を見たいと願いました。ゆきこが背負うと、妻の両手は胸元をつかんだまま息たえてしまいました。離れない腕は切るしかありません。小泉八雲が描く因果の世界です。

## 『かんじ』

### こびとがつくるもじとことば

作・絵/すずきてつお  
1,870円(アリス館)



先生が眠っている間に、こびとたちは仕事にとりかかりました。木の枝、粘土、鳥の羽根、いろいろ集めて文字を考え、組み合わせれば難しい漢字もつくることができます。漢字の成り立ちの6つの仕組みの解説も。

## 『じてんしゃにのった そば』

文/キョウ・マクレア  
絵/グレイシー・サン  
訳/あらいきくこ  
1,870円(あさ出版)



かつて、そば屋さんの出前持ちは、曲芸のようなテクニックで配達をしていました。表紙の姿は、決して誇張ではありません。子どもたちは憧れ、マネしようとして大騒ぎになりました。作者の子ども時代の思い出から生まれました。

もう読んだ?  
**新刊 100!!**

2025年9~11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。㊧は縦開きの本。  
㊦マークは乳幼児から、㊧は中・高校生も楽しめる本です。

## 定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

プログラム(各10~15分) 小学校高学年

4月 テーマ: ぼくも、わたしも! 新学年がスタート

- ①「**ぼく・わたし**」  
作/高島那生 1,540円(絵本館)  
いよいよ新学年。苦手なこと・得意なこと、それぞれいろいろあるけれど、どれもぼく、どれもわたし。
- ②「**わたし**」  
文/谷川俊太郎 絵/長 新太 1,320円(福音館書店)  
さまざまな角度から客観的に「自分」を再発見。高学年にもおすすめです。
- ③「**ぼくだけのこと**」  
作/森 絵都 絵/スギヤマカナヨ 1,540円(備成社)  
あなたにとって特別な「ぼくだけのこと」「わたしだけのこと」が見つかりますように。

5月 テーマ: みんなの地球

- ①「**地球のことをおしえてあげる**」  
作/ソフィー・ブラッコール 訳/横山和江 2,090円(鈴木出版)  
世界じゅうの子どもたちと出会った作者が描きあげた「みんなの地球」の物語をしつくりと。5月22日は国際生物多様性の日。作者の言葉も紹介します。  
※ もう一冊添えるなら  
②「**こんな おおきな かず、みたこと ある?**」  
作/セス・フィッシュマン 絵/イザベル・グリーンバーグ 訳/竹内 薫 1,650円(備成社)  
宇宙、そして、地球にあふれる巨大な数。広大な世界・知識の奥深さを感じるきっかけに。

6月 テーマ: いろいろ いろんなカエル

- ①「**いろいろかえる**」  
作/きくちちき 1,540円(備成社)  
躍動的な筆から生まれたカラフルなカエルたちは、個性豊かで、生命の喜びに満ちています。
- ②「**オレ、カエルやめるや**」  
文/デヴ・ベティ 絵/マイク・ホルト 訳/こばやしけんたろう 1,760円(マイクマガジン社)  
ところで……「オレ、カエルやめるや」と言っているカエルもいるようです。さて、どうなるのでしょうか。
- ③「**2ひきのカエル そのぼうきれ、どうすんだ?**」  
作・絵/クリス・ウォーメル 訳/はたこうしろう 1,980円(徳間書店)  
最後に、ユーモア抜群! 急展開も見逃せない愉快なカエルのおはなしを。もう笑いごとではありません。  
(豊嶋さおり)

プログラム(各10~15分) 小学校中学年

4月 テーマ: ふたりの転校生

- ①「**ランカ にほんにやってきた おんなのこ**」  
作/野呂きくえ 絵/松成真理子 1,430円(備成社)  
外国籍の子がクラスにいることも増えてきました。遠い国からはじめて日本の小学校に来た子の不安な気持ちがよくわかりますね。
- ②「**たかこ**」  
文/清水真裕 絵/青山友美 1,540円(童心社)  
平安時代から来た女の子の言葉は、歴史的仮名遣いなので、発音に注意しましょう。

5月 テーマ: おおぞらに飛び立とう

- ①「**とんで やすんで かんがえて…**」  
作/五味太郎 1,430円(備成社)  
広い海の上を飛んでいくにはどうしたらいいか、子どもたちにも一緒に考えてもらうのもいいかもしれません。
- ②「**そらいっぱい の こいのぼり**」  
作/羽尻利門 1,430円(世界文化社)  
空にこいのぼりの泳ぐ姿をめつきり見なくなりました。せめて絵本で空いっぱいのこいのぼりを見せてあげたいです。
- ③「**ひろいせかい は きみのもの**」  
文/オリヴィア・ホープ 絵/ダニエル・イグナス 訳/やまもとみき 2,420円(化学同人)  
ダイナミックな絵に合わせて、思い切り躍動的に読んでください。

6月 テーマ: 水がほしいな

- ①「**もくもく やかん**」  
作/かがくいひろし 1,650円(講談社)  
やかんたちと一緒に、子どもたちも息をとめたり吐いたりしてくれることでしょうか。
- ②「**カエルの おでかけ**」  
作/高島那生 1,650円(フレール館)  
カエルのように雨を楽しめたらいいですね。梅雨の季節の気分を晴れやかに!
- ③「**おおきなカエル ティダリク**」  
再話・絵/加藤チャコ 1,320円(福音館書店)  
どうやってティダリクに水を吐きださせるか、おはなしのおもしろさを伝えてください。言葉づかいを生かして、楽しく読みましょう。  
(粟生真弓)

プログラム(各10~15分) 小学校低学年

4月 テーマ: なかよくあそぼう

- ①「**くれよんの くろくん**」  
作・絵/なかやみわ 1,430円(童心社)  
くれよんたちのおはなしです。みんなで仲よく絵が描けるでしょうか。
- ②「**あれこれ たまご**」  
文/とりやまみゆき 絵/中の 滋 1,320円(福音館書店)  
スーパーで売られている卵たちが、次々と変身します。テンポよく関西弁(もどきでもOK)で読みましょう。
- ③「**りんごりらっば**」  
作/あべけんじ 1,320円(福音館書店)  
言葉遊びをみんなで。だんだん言葉がながくなって難しくなります。

5月 テーマ: お出かけしよう

- ①「**でんしゃ くるかな?**」  
作/きくちちき 990円(福音館書店)  
動物たちと一緒に電車が来るのを待ちます。みんなで「来たー!」と言ってみましょう。
- ②「**ぼちぼちいこか**」  
作/マイク・セイラー 絵/ロバート・グロスマン 訳/いまえよしと 1,320円(備成社)  
かばくんは、何かになれるでしょうか。なかなかうまくいきません。この関西弁のはんびりタイプです。
- ③「**バルボンさんのおでかけ**」  
作/とよたかずひこ 1,430円(アリス館)  
バルボンさんのお仕事は何でしょう。一緒にバスに乗ってみたいですね。

6月 テーマ: 静かに考えよう

- ①「**あめふり くまのこ**」  
詩/鶴見正夫 絵/高見八重子 1,320円(ひさかたチャイルド)  
ゆっくりページをめくって歌いましょう。絵だけのページもハミングしてみてもいいかな?
- ②「**いいから いいから**」  
作/長谷川義史 1,540円(絵本館)  
世界を平和にする本気の合言葉、「いいからいいから」。お友だちにも言ってみよう。
- ③「**へいわって どんなこと?**」  
作/浜田桂子 1,650円(童心社)  
平和が自分のすぐそばにあることをみんなで感じてみましょう。  
(高木佳世子)



対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

春

「はるのやまは ザワザワ」

作/村上康成 1,540円(徳間書店)  
冬眠から目覚めた子グマが、ハチミツを探して歩いています。山の中には、いろんな音があふれています。耳をすませてみましょう。



父の日

「ねえ とうさん」

作/佐野洋子 1,540円(小学館)  
クマの子は、久しぶりに帰ってきた父さんと散歩に出かけました。父さんは、何をやってもかっこいい! 「父さんの子どもでうれしい!」クマの子です。



紙芝居

「いのちをまもるよ こうつう せんたい!」

作/深山さくら 絵/ぼーるかなこ 監修/日本交通安全教育普及協会 1,815円(教育画劇)  
春と秋に行われる「交通安全週間」だけでなく、日々、交通ルールを守るのは大事なことです。子リスのピッピと一緒に、信号や標識を確認してみましょう。



紙芝居

「まいごのこいのぼり」

脚本・絵/石井聖岳 1,650円(童心社)  
ネコのふうたろうは、泣いている大きな魚を見つけました。どうやら、迷子ようです。一緒におうちを探してやることにしました。



紙芝居

「おたまたまごろう」

作/金山美沙子 画/若山 憲 2,090円(童心社)  
池の中の丸いゼリーのようなものは、トノサマガエルの卵でした。やがて、オタマジャクシが生まれ、足がええ、立派なカエルになるまでのおはなしです。  
(安富ゆかり)



すべての子どもたちに笑顔を

著作権保護コンテンツ

# 支援の必要な子 と絵本

神奈川県立平塚盲学校での読書体験や読書支援の取り組みを、これまで2回にわたって紹介してきました。

3回目となる今回は、子どもたちの学びと日常を支える「場」と「人」に焦点を当てます。

学校図書館や寄宿舎といった学校生活の中で、先生方がどのように読書環境を整えてきたのかを、現場の声とともにお伝えします。

取材・文／小山まゆみ



小学部向け、中学部向けなどざらりと並ぶ書架。点字本は1冊1冊がファイリングされて分厚い。



1910(明治43)年に開校された平塚盲学校は、幼稚部から高等部(本科普通科、専攻科)までの教育課程があり、寄宿舎も併設されています。写真は左から学校司書・池谷晶子さん、教務部教諭・畑谷克枝さん、小学部教諭・滝口千代さん、幼稚部教諭・田中麻衣さん。

## 安心して使え、自分で選べる学校図書館

学校図書館を使ううえで、特に大切にされていることを教えてください。

**池谷さん(以下、学校司書)** まずは安全に使えることです。図書館に入つてまっすぐ進むと、左側に点字資料の書架、右側に墨字資料や机がある配置になっています。動線が変わる場合は、必ず事前に幼児・児童・生徒・教職員に伝えるようにしています。慣れた空間だからこそ、急な変更は危険につながるためです。

十字奉仕団にテストやドリルの点訳をお願いするなど、地域の支援も受けながら対応しています。

寄宿舎での読書活動も含め、学校だけで完結するのは難しく、外部のボランティアや地域の方々力があつて、子どもたちの読書環境が整えられていることを、日々実感しています。

学校の読書活動には、外部の支援がどのように関わっているのでしょうか。

**学校司書** いろいろな団体の方にお世話になっています。藤沢市点訳奉仕会の「指で読む絵本グループ」からは、触つて楽しめる絵本を寄贈していただいております。子どもたちに人気です。素材感がひとつひとつ違って、木のざらざらした感触や、布のやわらかさなどを、実際に触りながら楽しんでいきます。読む前にまず触つて、そこから想像が広がっていく様子が見られます。

大阪市の「てんやく絵本ふれあい文庫」からは、「定数の本をお借りして返却すると、また新しい本を送つてくださる仕組みで支援し

点字の書架は通路が狭い印象ですね。

**学校司書** 点字の資料は、書架につけられた点字表示を触りながら探ることが多いため、両手で書架に触れながら進めるような配置になっています。実際に、両手で棚を触りながら、順番に進んでいく子もいます。これまで小説しか読んでいなかった子が、はじめてレシピ本を探したときには、「順番に棚を触つていってみよう」と声をかけました。触つて探すと本体が、本との出合いにつながっています。

蔵書の構成や選書の基準について教えてください。

**学校司書** 学校図書館は学校教育に寄与する場なので、児童・生徒の興味・関心に合い、学習を進める助けとなるもの、人間性を深められるものを基本にしています。先生方が授業で使えるかどうか、大切な視点です。

現在の蔵書の特徴は？

**学校司書** 蔵書はおよそ2万4000冊あります。形態として

いただいています。

本は、世界と

つながるための入り口

日々の実践の中で、読書の実感するのはどのような瞬間ですか。

**田中さん(幼稚部)** 絵本を通して、同じ言葉を子どもと一緒練習したり、子どもが発した言葉をこちらが受け取ったりする中で、「コミュニケーションが生まれている」と感じる時です。絵本は、言葉だけでなく、人と人をつなぐ大切なツールだと思います。

小学部では、どのような変化が見られますか。

**滝口さん(小学部)** 朝の読書の時間に本を読むことで、言葉の使い方が豊かになり、日常の会話がかわつてきたと感じることがあります。好きな絵本に出会うと、家でその話をして、保護者の方が絵本を購入し、今度はその子が家族に読んであげる。そんな広がりを感じたとき、読書の力を実感しました。

は墨字が約6割、点字が2割、デイジーなどの音声資料が約2割です。絵本を含む文学分野が全体の半分ほどを占めています。本校には職業教育課程である理療科があるため、成人の生徒が利用する資料では、デイジーなど音声資料の割合が高いのも特徴です。

## 地域の支援とともにある読書の時間

寄宿舎があるのですが、ここでも読書活動が行われているのでしょうか。

**学校司書** 寄宿舎では、平塚音訳赤十字奉仕団の方による「リーディングサービス」があります。月に2回、寄宿舎に来ていただき、生徒本人が希望する本や、保護者から「読んであげてほしい」と依頼のあった本を、対面で1時間ほど読んでいただいています。今年度は利用している生徒は1名ですが、その子が読みたい本を中心に願っています。

これまでは、どのような利用がありましたか。

教務のお立場から見て、読書はどのような意味を持っていますか。

**畑谷さん(教務部)** 机上の学習だけではない学びが、確かにあると感じています。自分がやりたい、知りたいと思ったことと本が結びついたとき、子どもは驚くほど力を発揮します。本は、自分で世界を広げ、会得していくための大切な存在だと思います。視覚に障がいがあつても、本との出合いは子どもにとって大きな意味を持ちます。ひとりひとりが自分に合った本と出会えたときの成長を、これからも大切にしていきたいですね。

図書館を預かる立場として、どのように感じていますか。

**学校司書** 今は動画やSNSなど、意識しなくても情報が入ってくる時代ですが、本は自分で探し、選ばなければ出合えません。その分、自分の意志が伴うツールだと思っています。図書館が、子どもたちにとって世界を広げるための「基地」のような場所であり続けたいと感じています。

# この本読んで! バックナンバーインデックス

2001年  
～2026年

全98号!



創刊号から98号まで、特集記事と登場した絵本作家さんたちを各号ごとに一覧表にしました。  
絵本を探すときの参考にしてください。

号数	特集タイトル1	特集タイトル2	絵本作家インタビュー/ その他記事内	
2004年	夏 11号	ロングセラーの海外絵本たち	語りの世界へようこそ!	とよたかずひこ、せなけいこ
	秋 12号	グリムの足跡を訪ねて 総集編	日本の ロングセラー絵本たち	太田大八、蔡 皋
	冬 13号	基本にかえてもう一度 おはなし会を開こう	絵本でアジアと交流しよう!	松谷みよ子
2005年	春 14号	アンデルセン 生誕200年	本にえがかれた動物展 II 十二支を手がかりに	なかえよしを×上野紀子 記事内:とよたかずひこ
	夏 15号	みんな大好き! 夏のおはなし会	科学絵本を楽しもう	あまんきみこ、あきやまただし
	秋 16号	知りたい、いま読み直したい 宮沢賢治	秋のおはなし会を盛り上げる 絵本たち	長谷川摂子
	冬 17号	赤羽末吉の世界	読みきかせ、 みんなはどうしてる?	さいとうしのぶ、高畠 純
2006年	春 18号	赤毛のアンを訪ねて	心もふんわり、春の絵本たち	神沢利子
	夏 19号	だから大好き! ナンセンス絵本 (内田麟太郎×竹内通雅)	L・M・モンゴメリ ゆかりの地を訪ねて	浜田桂子、佐々木マキ
	秋 20号	おはなし会を盛り上げる 7つのヒント	赤ちゃん絵本から始めよう	宮西達也
2007年	冬 21号	ワクワク、ドキドキ、大人もびっくり! 仕掛け絵本	土地ことばで読む 絵本と児童書	降矢なな
	春 22号	子どもと文学への深い思い 石井桃子の100年	紙芝居、その奥深き世界	いとうひろし 記事内:駒形克己
夏 23号	お父さんの育児は絵本で楽しく	絵本で世界をひとまわり ヨーロッパ編	和歌山静子	

号数	特集タイトル1	特集タイトル2	絵本作家インタビュー/ その他記事内	
2001年	冬 1号	やってみよう! 読みきかせ	飯野和好、なかやみわ、 石津ちひろ	
	春 2号	新入園、新入学に出会う本	パソコンで絵本の世界を探検だ!	あべ弘士、中川李枝子
2002年	夏 3号	絵本から飛びだして遊ぼう!	お父さんだって読みきかせたい!	荒井良二、 木村裕一、磯みゆき
	秋 4号	いろんな国の絵本を見てみよう	本の達人が選ぶ 秋のおすすめ「私の3冊」	ささめやゆき、西巻茅子 記事内:とよたかずひこ
	冬 5号	X'masのおはなし会を 盛り上げよう!	民話・昔ばなしは宝もの Vol.1	内田麟太郎、武田美穂
2003年	春 6号	民話・昔ばなしは宝もの Vol.2	上級生まで楽しめる! 春に出会う絵本たち	長 新太
	夏 7号	絵本を訪ねる高原の旅	大人も子ども楽しもう! 詩の世界へご招待	中川ひろたか×村上康成
	秋 8号	谷川俊太郎さんと詩の世界へ	赤ちゃんに読んであげたい 絵本大集合	長野ヒデ子、長谷川義史
2004年	冬 9号	冬休みは読みきかせの季節	絵本作家さん大集合! (太田大八ほか)	大島妙子、スズキコージ
	春 10号	春、出会いと別れの季節	紙芝居の魅力を探ってみよう!	川端 誠、どいかや